

兵庫県但馬水産技術センターだより

貝毒情報(イワガキ) TKD-07-03 号

令和7年7月9日発行

プランクトン及び貝毒検査を7月7日～9日に実施しましたので、その結果をお知らせします。

【概況】

- ・貝毒検査(7/9)の結果、今回検査した地点では麻痺性貝毒は検出されませんでした。
- ・貝毒の原因となるプランクトンはごくわずかながら確認されました。

【検査結果】

年月日 (採水・採取)		R7.7.7	R7.7.7
地 点 (St.)		香住	浜坂
貝類の毒化状況	麻痺性貝毒[MU/g]	ND	ND
麻痺性貝毒原因プランクトン	(旧称) アレキサンドリウム カ テ ネ ラ <i>Alexandrium catenella</i> (新称 At complex (旧) <i>A. catenella</i>)(細胞/mL)	0	0
下痢性貝毒原因プランクトン	ディノフィシス フォルティ <i>Dinophysis fortii</i> (細胞/mL)	0	0
	ディノフィシス アキューミナータ <i>Dinophysis acuminata</i> (細胞/mL)	0	0.01
	ディノフィシス ミトラ <i>Dinophysis mitra</i> (細胞/mL)	0.09	0.05
	ディノフィシス ロツンダータ <i>Dinophysis rotundata</i> (細胞/mL)	0.02	0.01
	ディノフィシス ルジエイ <i>Dinophysis rugei</i> (細胞/mL)	0.04	0.05
	ディノフィシス カウダータ <i>Dinophysis caudata</i> (細胞/mL)	0.03	0

※NDとは検出限界値(2.0 MU/g)未満のことです。※プランクトンは海水を濃縮して検鏡した密度です。



<規制の基準>

可食部の毒量が、
麻痺性貝毒:4 MU/g
下痢性貝毒:0.16mg オクタ酸当量/kg } を超えた場合

<注意が必要なプランクトン密度>

・麻痺性貝毒原因プランクトン(代表的な種)

アレキサンドリウム タマレンセ
(旧称) *Alexandrium tamarense* 5 細胞/mL 以上

アレキサンドリウム カ テ ネ ラ
(旧称) *Alexandrium catenella* 20 細胞/mL 以上

・下痢性貝毒原因プランクトン(代表的な種)

ディノフィシス フォルティ
Dinophysis fortii 50 細胞/mL 以上

※プランクトン密度の単位は細胞/mLと表記。(海水1 mLあたりのプランクトン細胞数)(mL:ミリリットル、1 mLは1 Lの千分の一)
貝毒については関係資料ウェブサイト(<https://www.hyogo-suigi.jp/wp-content/uploads/2020/11/kaidoku.pdf>)をご参照ください。

【今後の情報予定】

・8月上旬に調査を予定しています。調査結果がまとまり次第、「貝毒情報」としてお知らせします。

§ お問い合わせ先 § 兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター (担当: 中村 Tel: 0796-36-0395)
兵庫県但馬県民局但馬水産事務所 (担当: 水産課・峰、渡邊 Tel: 0796-36-1153)
ホームページ: <https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/>